

(VII) 全国支店配分体制と紙代納入状況

④ 概算増徴数

大阪支社	950
京都支所	400
名古屋	300
札幌	250
岡山	100
	2000

(注) 静岡支局に関してはオ1号の号外で、七面大次郎前と増徴数の300部を送っていたが、①紙代を納入しない ②固定購読前に送付を中止し、特定の支店任務の放棄を通告してきたので、現在与送を停止している。

⑤ 支局発送について

127~130まで — ニッハツ ... 発送は全くアワラズ
 131, 132 名古屋以西 遠路運搬
 133~ — 業務新聞発送

⑥ 紙代納入状況について

4/19 大阪支社 → 9000円
 5/7 岡山支局 → 6000円
 5/7 札幌支社 → 7000円

新装購読者からの納入 大阪 1600円、
 岡山 800円

これを合計しても、127~132、2万部の発注に対して、たった22400円にしかならない。納入0の京都札幌はもとより、全支局は127号以降の固定部数×10円の送金が週刊化の前に完了されなければならない、このことが、経営上における週刊化の前提である。

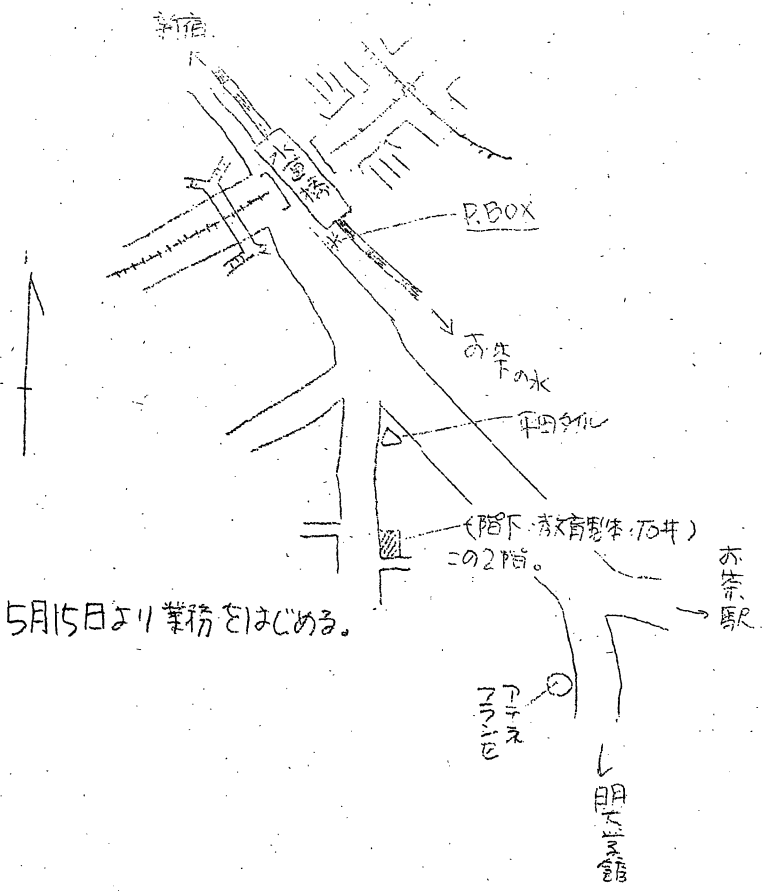
⑦ 支局建設拡大について

仙台(60部)
 茨城(100部)の両支局を週刊化までに支店にしたい。

(X) 単復社本社移転

* 各校校舎にみりて 徹底させること

- 東京都代田区神田猿樂町2-8
- 292-0849 (代表)
- 水直橋駅 徳山(東京よ)下車



(IX)
 ◇「戦旗」週刊化態勢に對する詳細な財政・経営問題について
 ◇都・労働者の「戦旗」配布・活用について

編集局・文藝/神島

週刊「戦旗」経営の収支計画

<この額は対外収>

1. 収入計画 / 全国支局

大阪	¥35,000-
京都	15,000-
名古屋	12,000-
岡山	3,000-
静岡	X
札幌	10,000-
計	¥75,000- (2000部)

全国分局

仙台	¥1,800- (60部) OK
和歌山	1,500- (50部)
茨城	3,000- (100部)
富山	900- (30部)
愛媛	1,500- (50部)
函館	600- (20部) (M級課)
横浜大	900- (30部)
ほか11分局	10,000- (約300)
計	¥30,200- (約640部)

学生分局	¥40,000- (1,200部)
個人購読	¥40,000- (1,000部)
集会等販売	¥24,000- (1,200部)
(地区)街頭販売	
書店扱い	¥15,000- (1,000部)
合計	¥224,200- (7,040部)

2. 支出計画 / 仕入

仕入	¥180,000-
発送費用(封筒)	13,000-
交通費	2,500-
発送費用(送料)	25,000-
合計	¥220,500-

よって、問題点はこれらから増収収支として成立するための、とりわけ支局、2X地区)街頭売り等の収入である。週刊化はこの点にこそかかっている。

以上、左のような感能を、組織的に實現させていくものは、武器として戦旗をわが同盟のあらゆる活動領域で位置させることであり、全国紙を台新報としての役割を果たし得るか否かも専らそれにかかっている。いまいきとした政治暴露と鮮明な組織・行動方針とは、あらゆる地区・あらゆる階級・階層について現実の階級社会の革命的止揚を担うる階級階級が自ら学ぶのを促進する上で不可欠の課題であり、同時に、工作者として人民の中へ入る革命的使命の担い手にと、ても、又そうである。あらゆる地域で燃起されている階級階級の息吹を、各戦線・各部署での闘いをますみ、とりあげ、この階級階級性を全地球・全人民の普遍的闘いへと押しひろげ深くさせる契機と内容させる意識性が、紙面の思想的技術的領域にも、その活用一階級・組織(オルタ)一にも、開かれていく。

かつて、我々は編集局活動に於ける、一國革命一経済主義又ターリニストの「戦旗」紙面についての(1)マジョリティー主義と、(2)一方通行的傾向とを咎め、批判してきた(昨年度同様)。だが、紙面の意識性に専ら限定されたこの努力は、組織活動との結合一活用の領域をおろそかにした点からも、他方では「こんな戦旗は読めない」→「なぐてもいい。」から、戦旗なしの独自運動となり、いわば戦旗が真空地帯におかれるという状況を生み出して来た。

従って、まず何よりも、組織活動と緊密な結合をも、その対象を目標とせねばならない。そして、現場の斗争・問題意識を不断に展開させ、現実の諸条件とは無関係に経営目標を絶叫するマジョリティー運動を断乎として拒否しつつ、紙面の発展をはかることが必要である。前者を以てこそ、後者の不断の實現も可能であろう。各戦線・階級・地区・学園での粗末主義と、党的独自活動の専ら工業性を克服するものとしての、まさに全国政治新聞の意義をこのような姿で獲得していかねばならない。

特別に、郵委委員会に於ては、このような組織活動と密着したものとしての発行ということが決定的である。

以上が運作的な配布・活用の基本となるところである。

C. 集会での販売状況

4. 21	¥7,400-	(日比谷)
26	4,700-	(明治)
27	5,500-	(日比谷)
5. 1	15,000-	(代々木)